

2024年度 日本工学院八王子専門学校											
A I システム科											
プロジェクト実習 3											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選	種別	実習	時間数	90	単位	3
担当教員	太田晶*1、小林彰人*2、瀬高昌弘*1、石川智彦*1、末吉竜介*1、竹内大吾*2、木村悠貴*3			実務経験	有	職種	システムエンジニア*1、データサイエンティスト*2、プランナー*3				
授業概要											
他学科・地域・企業と連携したRPA活用等による課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学びます。											
到達目標											
地域連携やコンテスト出場を通して、メンバーで成果物を完成させることを目標とする。最後まで成果物を完成させることで、専門技術の向上を目指す。また、プロジェクト活動を通じ、学生間の問題解決力、対話力、合意形成力を身につけ、プロジェクトマネジメントの基礎技術を身につける。											
授業方法											
グループ学習の形式で、実習中心の授業を行う。グループで企画内容をまとめ、毎回進捗状況に関する報告プレゼンテーションを行う。完成品を作成するまでにプロトタイプを作成し、プロトタイプに関する中間発表も実施する。成果物を完成させられるだけのプログラミングスキルが必須となるため、不足技術は自ら授業外で能動的に学習することが求められる。											
成績評価方法											
作品の内容や完成度、中間発表や最終発表の内容、グループ作業の状況などを総合的に評価する。											
履修上の注意											
授業中の私語や受講態度などには厳しく対応をする。理由の無い遅刻や欠席は認めない。講義に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーを守ることが求められる。（詳しくは、最初の授業で説明。）また、グループ学習の形式をとるため、協調性も評価の対象となりうる。授業時数の4分の3以上出席しない者は最終評価を受けることができない。ノートPCは必携である。											
教科書教材											
配布資料											
回数	授業計画										
第1回	オリエンテーション、グループ作成（実施趣旨、目標、進め方、および評価方法を理解する。グループを決定することができる。）										
第2回	制作物の検討（制作してみたいアプリケーションやサービス、使ってみたい機材や技術を列挙することができる。）										
第3回	実現性確認（出品するコンテスト、地域との連携などを決め、調達機材、製作期間、技術要素などの観点から、実現可能性を検討することができる。）										

2024年度 日本工学院八王子専門学校	
A I システム科	
プロジェクト実習 3	
第4回	計画実施(1) (計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプの作成などを行い、アウトプットを出すことができる。)
第5回	計画実施(2) (計画に沿って、技術調査、設計作業、プロトタイプ of 作成などを行い、アウトプットを出すことができる。)
第6回	中間発表準備および発表 (プレゼン資料やP Vの作成、デモの準備をし、リハーサルを行い、発表を行うことができる。)
第7回	計画 (制作物が完成するまでの計画を作成し、計画の実現性について説明することができる。)
第8回	計画実施(1) (計画に沿って、詳細設計、製造、品質評価などを行い、アウトプットを出すことができる。)
第9回	計画実施(2) (計画に沿って、詳細設計、製造、品質評価などを行い、アウトプットを出すことができる。)
第10回	計画実施(3) (計画に沿って、詳細設計、製造、品質評価などを行い、アウトプットを出すことができる。)
第11回	計画実施(4) (計画に沿って、詳細設計、製造、品質評価などを行い、アウトプットを出すことができる。)
第12回	計画実施(5) (計画に沿って、詳細設計、製造、品質評価などを行い、アウトプットを出すことができる。)
第13回	発表準備および発表(1) (プレゼン資料やP Vの作成、デモの準備をし、リハーサルを行い、グループ毎に制作物の発表を行い、他チームの発表を適正評価することができる。)
第14回	発表準備および発表(2) (プレゼン資料やP Vの作成、デモの準備をし、リハーサルを行い、グループ毎に制作物の発表を行い、他チームの発表を適正評価することができる。)
第15回	成果物の整理・集約・提出 (成果物の整理・集約を行い、提出を終える。)